

# メッセージ

池田大作

中華人民共和国建国六十周年の晴れの嘉節に、中国社会科学院世界宗教研究所と東洋哲学研究所の意義深き合同シンポジウムが開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

両研究所は、これまで十年間にわたり、仏教、儒教、道教と現代文明、宗教間対話をめぐって対話を繰り広げてきました。

そして、今回（四回目）のテーマは、「現代社会と宗教」であります。特別講演として、光栄にも仏教学の大家であられる楊曾文先生に、貴国と日本の学術、文化交

流史を考察していただけるとお聞きしております。

昨年五月、胡錦濤主席が来日された折に、再会を果たさせていただきました。胡主席の国連における「調和世界」建設の理念の提唱にも話題が広がり、両国のさらなる青年交流、文化交流などをめぐって、ご一緒に展望いたしました。

「調和世界」のビジョンの源流に、私は、悠久の中国史を貫く「天人合一」の世界観や、「大同の思想」に代表される「調和・共生の精神」の大潮流を見出しております。



共同シンポジウムでは「現代社会と宗教」をテーマに、日中の70人以上の研究者が意見を交換した（北京の中国社会科学院で）

この精神潮流は、アジア全体に流布した仏教の「縁起・共生」の思想とも響き合っております。これはトインビー博士の着眼でもありません。

その奥深い精神性、哲学性を湛<sup>た</sup>えた貴国から、「調和世界」という未来像が提起された意義は計り知れません。

中国をはじめとして、全世界の人々、国家が、共生、調和の理念のもとに協力しあつてこそ、人類の恒久平和が到来すると期待されているからであります。

中国と日本は、さらに若い世代に光をあてながら、文化、教育、学術、政治、経済等のあらゆる次元の交流を通して、ともに繁栄しつつ、アジアと人類の未来に有意義な貢献を果たしていくことができます。

その意味において、この「シンポジウム」が、学術次元での相互理解を深めつつ、人類のための「知的創造」の果実を実らせることを念願してやみません。

最後に、建国六十周年を迎えて、ますます発展しゆく「大中国」の未来に千秋万歳の栄光あれと申し上げ、私のメッセージとさせていただきます。

（いけだ だいさく／創価学会インタナショナル会長）